

探鳥会報告2017

【目的】 野鳥の生息状況を調査する

【調査地域】 裏磐梯地区

【結果・考察】

冬（1月～3月）

木の実がほとんどならず、冬鳥はとてもさみしい冬であったが、2月6日にベニヒワが群れで入り、3月にはベニヒワ単体で150羽ほどの群れとなって4月中頃まで見られるなど、後半にベニヒワが入ったおかげで探鳥を楽しむことができた。



また、ウソは少なかったが、マヒワは1,000羽近くの群れが確認でき、毎年安定して飛来している。

春・夏（4月～9月）



夏鳥の繁殖は例年通りに推移しており、個体数も例年通りであった。

4月20日にキビタキ、オオルリを初見、例年より10日ほど早い飛来となった。この数年、季節が少しずつずれてきているのを感じさせる事象が散見される。

2016年夏には裏磐梯でサンコウチョウの繁殖を初確認したが、本年はサンコウチョウ自体が確認できなかった一方で、ミサゴは3年連続で繁殖を確認できた。キバシリの繁殖も増えてきており、子育てに遭遇する機会も多くなってきた。

冬（10月～12月）

春・夏の気候のせいか、ひと冬中、冬鳥が過ごせるほどカンボク、キハダなどの木の実が豊富で、裏磐梯の冬鳥の定着が顕著である。

10月にはレンゲ沼で裏磐梯ではきわめて稀な通過中のムギマキが確認できた。

爆弾低気圧の影響もあり、11月中旬にはベニヒワ、レンジャク、オオマシコが飛来した。



この冬、20羽以上のミコアイサが確認できた。裏磐梯でこれだけの数が確認できることは極めて稀なためここに記録する。

また、12月15日に4羽のケリが飛来。裏磐梯では初確認で、しかも雪の中での確認というのは驚きであった。



【概要】

(1) 調査実施日

第1回	平成29年	1月11日
第2回	平成29年	2月8日
第3回	平成29年	3月8日
第4回	平成29年	4月12日
第5回	平成29年	5月15日
第6回	平成29年	6月9日
第7回	平成29年	7月10日
第8回	平成29年	9月13日
第9回	平成29年	10月3日
第10回	平成29年	11月13日
第11回	平成29年	12月12日

(2) 調査者

裏磐梯エナガの会

以上